

# E-BOAT Eボートはこうして生まれました

NPO地域交流センターでは、川づくり・まちづくりのため、Eボート(10人乗りの手漕ぎボート)を活用してきました。

ダム湖を持つ市町村で作られた『ダム水資源地域交流協議会』では、上下流の交流を進めるため、平成3年よりダム湖面を活用したウォータースポーツ競技大会を行ってきました。そこでは地元のカヌー協会やボート協会の協力を得て、カヌーやレガッタ等を行いましたが、専門性や競技性が強いため、初心者が交流するには限界がありました。

そこで、カヌー協会のアドバイスもあり、交流することを目的にしたすべての人が楽しめるようなボートを作ろうということになりました。そうして誕生したのが「Eボート」です。

初めての人でも簡単に作れ、一緒に汗を流すことをきっかけに交流を深めようという目的で、10人乗りの手漕ぎボートになりました。Eボートは、小さな子どもから高齢者、身体障害者、知的障害者、知覚障害者にも、川を体験し楽しむきっかけを与えており、川を福祉の活動の場、教育的活動の場として活用するための道具として、活用方法や利用対象が拡大しています。

## Education 教育

### 教育

青少年の教育を目的とした活動にも使われています。



## Entrance

### 海でも親しめる

海体験への入門編・入り口にもなるボートです。



毎年、海の日には東京・お台場にてタイムとチームワークを競うEボート大会が行われています。今年は500人以上の参加者が集まり、暑い夏の一日を熱狂的に過しました。

その他、左記のマップの通り、全国各地で大会が行われてきました。

最近の事例では、学校の先生も生徒も現場体験型の授業が大切ということで、信濃川のある長岡の長岡市教育委員会や、茨城県・栃木県を流れる那珂川では、流域内16市町村の教育委員会がEボートなどを使った水辺の体験学習を推進しています。

## Emergency 救急

### 救急

水害や水辺の事故等の緊急時にも活用できます。安全管理の講習会にも使用されています。



今年7月13日の集中豪雨に見舞われた新潟県見附市では、今後の水害への備えとして、手漕ぎボートを導入することが決まりました。

この救助訓練によって、まち中が水没した際に、Eボートを利用すれば一度にまとまとった人と物資の移動・運搬が可能であることが確認出来ました。

摂南大学の「淀川研究会」では、川の環境調査やクリーンキャンペーンなどの活動とともに、Eボートを使った救護訓練を行っています。木曾川や鬼怒川で行われた「川の指導者育成講習会」でも、安全管理のプログラムとしてEボートが活用されています。

山形県長井市の長井北中学校の生徒が、修学旅行でのプログラムとしてEボートで隅田川を周遊しました。魚やカニを見つけたり、地元の町長さんから昔の隅田川のことを聞いたり、東京の川を体験することで、自分達の川（最上川）を見直す機会にもなりました。

## Exchange 交流

### 交流

川やダム湖などの水辺での交流イベントが行われています。



北海道では、サハリンにEボートを持って行き、現地のロシア人と一緒に、トウナイチャ湖でEボートで競漕を行いました。その後、声問川（稚内市）でのEボート大会には、サハリンからもチームを組んで参加してもらいました。

最も水害の多い岩手県川崎村では、北上川で100チームが参加するEボート大会が行われています。人口5000人足らずの村で1000人が競技に参加する全国一の規模のEボート大会です。